

# Narashino International Association



## NIA SQUARE ナイアスクエア

Quarterly News

### 第57号

2002年3月1日

習志野市国際交流協会

Special  
What's New  
Report  
Report

モンゴル国  
音楽で心の交流を  
アルゼンチン便り他  
N.I.A.事業報告

information  
N.I.A Youth  
Who's who  
Challenge

会長就退任の挨拶  
A.L.T.の活動  
こんにちわ・コンニチワ  
ザ・英文クロスワード

### モンゴルは「遠くて近い国?」「近くて遠い国?」

おおつ さやこ  
大津 清子  
(事務局職員)

#### ☆はじめに

「モンゴル」という地名を聞いて何を想像されるでしょうか? 10年くらい前までは「アフリカの国でしょ」なんて言われることもありましたが、最近では、モンゴルもかなり知名度が上がってき、「チンギス・ハーン」や「ゴビ砂漠」「草原」だけでなく、「相撲取りの出身国」「日本人と顔立ちが似ている民族のいる国」などを連想される方も多いようです。

ね。

東アジアの心臓部、ゴビ砂漠とその周辺の草原地帯に、かつてチンギス・ハーンという英雄がモンゴル帝国を作りました。チンギス・ハーンの孫、フビライ・ハーンが漢民族の元朝等を支配下に入れて元朝という一大帝国を築き、鎌倉幕府と戦ったことは、昨年NHKで放映され

た『北条時宗』をご覧になってご存知の方も多いのではないでしょうか。その後、絶えず曲折を経て、モンゴルは北と南に分けられ、北は独立国「モンゴル人民共和国(現在はモンゴル国)」、南は中国の「内モンゴル自治区(内蒙古自治区、内モンゴルといった呼び方もあります)」となりました。今のモンゴル国とされる地域、北部モンゴルで、モンゴル人達が独立国を作る際に、本当は南部モンゴル(現在の内モンゴル自治区)も一緒に独立させ

ようという気持ちがあったとされていますが、中国やソ連、日本など、当時のモンゴルを取り巻く国々の利害関係のために、その願いは叶いませんでした。結局、北部モンゴルはソ連の力を借りて独立を成し遂げましたが、南部モンゴルはその後も独立運動をしたものの達成出来ず、中国の1自治区となつたのです。今回はこの2つの地域のうち、モンゴル国の方を主にご紹介し、内モンゴ

ル自治区に関してはまた機会を改めてご紹介したいと思います。

#### ☆地理的には意外と近い4時間の旅

さて、モンゴル国は、一体どうやったら行けるのかとよく聞かれるのですが、実は関空から直行便があり(近いうち成田からも直行便が出るそうです)、飛行時間も4時間ほどと、意外に簡単に行け

しまうのです。景色をゆっくりと楽しみたいという方は、北京からの大同経由、若しくは内モンゴル自治区のフフホト経由の国際列車の旅がおすすめ。ただし、体力のある方だけにですが。

国際列車は、行商をするために薄黄色のテープでぐるぐるとテープングした大きな荷物をいくつも引きずるモンゴル人で今もいっぱいと聞きます。市場経済に移行して間もない頃は、原価の数倍の値段で売れるということ



ウブルハンガイ県にて

で、生活の足しにと外交官の奥様方や学校の先生達も行商をしていましたが、今はこういう商売もそれほど利益が出ないようです。

## ☆言語的にも意外と近い日本語とモンゴル語

中国とロシアに挟まれた国なので、モンゴル語はどちらかの言葉に近いだろうと思われがちですが、実は日本語と語順が殆ど同じです。通訳をする時も、頭から訳すことが出来てしまうし、名詞の後にくっつく助詞も日本語の「てにをは」に8割以上対応するので、英語より話しやすい言語なのです。敢えて違うところを挙げれば、語彙の違いでしょうか。例えば、家畜に関する名称はすごくバラエティーに富んでいて、年齢や毛の色によって全く異なる名称をもっている上に、その色がまた微妙な色合いだったりもするので、翻訳するのも一苦労です。

文字は、内モンゴル自治区では古くからアラビア文字を縦にしたようなモンゴル文字が今も使われています。モンゴル国でも古くはモンゴル文字が使われていたのですが、1940年代からロシア語のキリル文字が採用され、民主化後再びモンゴル文字が復活したのですが、出版物は依然としてキリル文字によるものが圧倒的多数を占めています。尚、モンゴル文字は縦に、左から右に読みます。ちなみに、NHKの『北条時宗』の題字が一風変わっていたのは、モンゴル文字の形に似せていたからです。

## ☆民主化と仏教の復活

さて、モンゴル国は1920年代から70年近くずっと社会主義国だったわけですが、1990年に民主化し、経済も市場経済となりました。これに伴って、社会主义時代に禁止されていた信仰の自由、言論・出版の自由などが認められ、仏教が復活しました。モンゴルの仏教は、チベット経由の仏教で、日本の仏教とは多少違いますが、日本人が仏教を信じているというと、親近感を感じてくれるようです。経典はモンゴル語のものもありますが、チベット語で書かれたものが多く、お坊さん達はチベット語でお経を唱えています。

## ☆モンゴル人の家はどんな家?

これまたよく聞かれる質問ですが、都会の人達は鉄筋コンクリートのアパートに住み、ゲル(移動式の家屋)よく言われる「包(パオ)」は中国語です)に住むのは、田舎の人と都市近郊に住む人達です。多分、モンゴル国の首都ウランバートル市は、「モンゴル人は皆ゲルに住んでいる」と思っている人たちの想像をはるかに超えて都会で、鉄筋コンクリートの建物が立ち並ぶ「草原の中の小都市」という感じです。ただ、そんなウランバートル市も中心から車で30分も離れれば果てしない草原が広がります。

遊牧民は、春夏秋冬の4回移動しますが、ゲルはその

移動に最も適した住居です。建てるのにも、解体するのにも殆ど時間がかかるということ、解体した家が一つの荷車にすっきり収まるなどがその理由です。ゲルの骨格は木材で作られていますが、壁に巻く布と床に敷く絨毯は羊毛などで作られたフェルトです。

## ☆羊・羊・羊の食生活と荒れた胃の治療法

地方によって異なりますが、モンゴル国のモンゴル人の主食は羊肉と乳製品。夏から秋と遊牧で肥やした羊を解体して冬場と春の食料として保存します。都会のモンゴル人は殆ど年中羊肉を肉饅頭にしたり、うどんと一緒に食べたりしますが、田舎のモンゴル人は、冬と春は羊肉を食べ、春の家畜の出産シーズンが始まると乳製品を作り始め、夏は主に乳製品だけで過ごします。これ、実は冬中羊肉を食べて荒れた胃を治療する彼らの生活の知恵だったりもするのです。後でも説明しますが、この国のお牧民は、家庭によって組み合わせは異なりますが、馬、羊、山羊、駱駝、牛の5種類の家畜を遊牧していて、この5種類の家畜を時に食肉として、時に乳製品を作ったりして利用してきました(とりわけ多く食べるのが羊肉というわけです)。乳製品は、ヨーグルトとちょっと変わったチーズ、そしてアイラグという馬乳酒があります。馬乳酒は、カルピスの元祖と言われていますが、カルピスより酸味があって、ピリッとした舌触りがし、モンゴル人はどんぶりになみなみと注いで飲むどころか一日中これだけ飲んで過ごすこともあります(これで胃がきれいになるのだそうです)、慣れない日本人は一口飲んでも必ずお腹を壊すのでご注意を。

なお、日本人の大好きなお米は、今でこそかなり食べられるようになりましたが、昔のモンゴル人は「体を冷やす作用があるから」ということで、殆ど食べなかったそうです。その代わり、小麦粉はうどんにしたり、肉饅頭の皮にしたりと、羊肉と一緒に食されてきました。冬のモンゴル国の中には、いわゆるカレーの材料(にんじん、たまねぎ、じゃがいも)とキャベツ、それからハウスもののきゅうりとトマトしか無いので、現地日本人はビタミン不足に陥るので要注意。でも、モンゴル人は「ビタミンいっぱいの草を食んだ羊の肉だからしっかりビタミンが含まれているじゃないか」とか「お茶にビタミンが含まれているんだからちゃんと飲め」などと言は張ります。

お茶といえば、モンゴル人は塩入りのミルクティーを飲みます。慣れない人はこの味に驚くかもしれません、チベット人の飲むバター茶よりは、あっさりとしています。お茶の濃さは地方によって異なり、東から西へ行くほど、つまりチベットに近づくほど、不思議と味が濃くなります。

## ☆家畜は財産。では、土地は？

モンゴル人は、馬、羊、山羊、牛、駱駝の5種類の家畜を総称して「マル」と呼びます。「マル」は財産とされ、19世紀の終わりまでは、罰金なども「マル」で払わされていました。特に馬は5種類の家畜の中でも一番価値あるものとされてきました。

これに対して、土地は財産であるという考え方は昔からあまり無かったようです。社会主義時代ももちろん、土地は国有財産でしたが、最近、市場経済に移行してからは、土地の私有化が始まり、土地所有に関する考え方がありつつあり、不動産業がブームになっています。

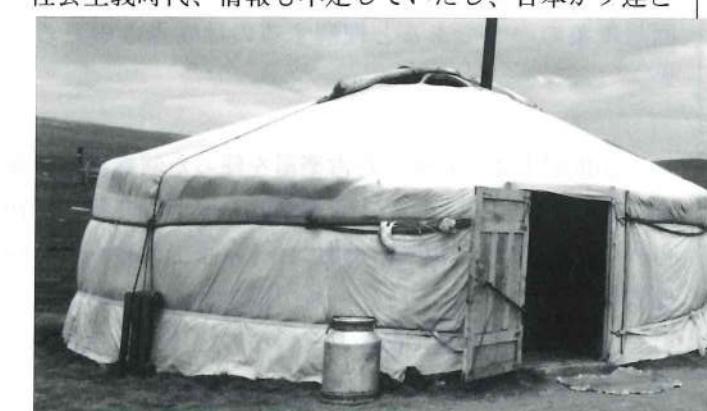
## ☆「子どもはお客様」の子ども観と教育

モンゴル国にある謎々を調べていた時に、こんな謎々にめぐり合ったことがあります。「遠方からやってきたお客様で、お出ししたご馳走が骨のないもの、これなんだ？」というもの。これ、実は生まれてきたばかりの乳児を表しています。ご馳走が骨なしなのは、乳児のおしゃぶりとして羊の尻尾の脂肪部分を与えるからです。先ほど、モンゴル人にとって家畜は財産で、その中でもとりわけ馬が特に価値があると書きましたが、その馬を産む雌馬を持っている人よりも子どものいる人の方がよいとも言われ、子どもは「期待の星」として大事にされてきました。それは、今も変わらない考え方の1つのようにです。そんな子ども観を持った人たちなので、モンゴル人はとても教育熱心な人達なのです。

モンゴル国の学校は、4-4-2制です。都会の子ども達は、家から通いますが、地方の子ども達は、寄宿舎に入ったり、学校の近くの親戚の家にまがりして通います。近代的な学校制度が普及する前は、お寺で勉強したり、近所の有識者の家で（と言っても、馬で通うほど遠かったりもするのですが）文字を習ったりしていたそうで、日本の江戸時代の寺子屋にどことなく似ています。社会主義時代の徹底した教育と根っからの教育熱心さのおかげで、モンゴル国の識字率は9割以上と非常に高いのがこの国人達の誇りです。

## ☆日本にとても感心を持っているモンゴル人達

社会主義時代、情報も不足していたし、日本がソ連と



社会主義時代、情報も不足していたし、日本がソ連と

仲が悪かったこともあって、モンゴル国では日本は「資本主義&帝国主義の国」と、とても悪評高いものでした。一応、日本とモンゴルが国交を樹立したのは1972年ですが、1990年に民主化するまでモンゴル人の抱く日本像は相当悪かったようです。日本の本なども、社会主义時代は夏目漱石の『三四郎』など数える程しか翻訳されず、芭蕉や与謝野晶子等日本文学に興味を持っていた学者の多くがロシア語に翻訳されたものを読んでいたそうです。

でも、民主化してからは日本に興味を持つモンゴル人が増え、日本語を勉強する人も大勢います。小学校などでも、日本語の授業を行う学校があったりして、日本から青年海外協力隊で日本語を教えに来ている日本人の方々もかなりいます。翻訳される日本の本も徐々に増えてきていて、司馬遼太郎の『最後の將軍』や『明治』という国家、松谷みよ子の『小さいモモちゃん』などの本が翻訳されています。

近年、モンゴル国でもインターネットがかなり普及してきているので、日本にいてもモンゴル国で伝えられている情報を同時に見ることが出来るようになりましたが、日本に関する情報はかなり多く掲載されてきているように感じます。例えば、若者向けの情報サイトに『 shinigura』や合気道についての情報が掲載されていたり、新聞のインターネット版にも小泉内閣の改革についての報道がしばしば見られます。ちなみに、個人的にもらうメールを見る限り、傾向として今のモンゴル人の関心事は、「今の若い日本人はどんなことに興味を持っているか？」、「日本とビジネスをしたいが、どんな分野なら上手く行くか？」、「漢字をどうやったら簡単に覚えられるか？」、「日本にはどうやったら留学・就労できるか？」、「日本はどうやってここまで経済成長したか？」などなどで、ご存知の方は機会があれば答えてあげてください。

以上、最近話題になりつつあるモンゴルを簡単に紹介しましたが、皆さんにとって「遠くて近い国」でしたでしょうか、それとも「近くて遠い国」でしたでしょうか？



モンゴル人の移動式家屋「ゲル」



## ●音楽は民族・宗教を超えて感動を共有できる

バロック・ヴァイオリニストの若松夏実さんは、ヨーロッパを中心に国内外で演奏活動を続ける一方で、桐朋学園大学、及び東京芸術大学の古楽器科で非常勤講師を務めている。その若松さんに、中東で演奏した経験とともに音楽による共通体験について伺いました。

「私はイスラエルでバッハの『ヨハネ受難曲』を演奏したことがあります。受難曲というものは、新約聖書の中のイエス・キリストの受難を題材としたのですが、同時にユダヤ教を糾弾していますから、イスラエルの聴衆からどんな反応が起こるか少し心配でした。でも聴衆の方々は熱烈に拍手してくださいました。ユダヤの人々が本当に音楽を愛していることを強く感じ、また、宗教を超えて人々に訴えかけられる音楽の力を再認識しました」

国家や民族間等で紛争が起ららずに、平和な世界を実現することが人類の悲願である。しかし、それには民間人による対話や音楽、美術など芸術文化の交流が不可欠である。音楽、特に西洋のクラシック音楽は、民族を超えた共通言語という側面を持つかもしれない。

若松さんは、ご主人の勤務先の関係で4年前、習志野市に移り住んだ。「文教住宅都市で住みやすいところですし、音楽の街として学校における音楽教育も盛ん」という印象を持っている。

国内はもとよりヨーロッパ、オセアニア、アメリカなどで、バロック時代から古典派時代の音楽を中心に、古楽器による演奏活動をしている。3才より才能教育でヴァイオリニストを始め、桐朋学園大学音楽学部を卒業。卒業後、古楽器による演奏を始めた。1982年にオランダのデン・ハーグ王立音楽院に留学。バロック・ヴァイオリニストをシギスヴァルト・クイケン氏に師事。1985年、ソリスト・ディプロマを得て同校を卒業した。

## ●古楽器を使ったバロック音楽の再現が評価されている

クラシック音楽の素人からすれば、ウィーンやニューヨークなどに留学するのが通例と思っていたが、留学先をオランダのハーグに決めたのは、どんな理由からなのか。

「師事したかったシギスヴァルト・クイケン氏（彼はベルギー人）が教えていたのが、オランダのハーグだからです。留学して感じたことのひとつは、ヨーロッパの留学生との人間関係に、こちらの心を読んでくれるようなこまやかさ、暖かさがあった、ということでした。」

ヨーロッパは個人主義という観念を大学時代に植え付けられた人がほとんどだろうが、実際には「個人が自分に責任を持っていると、他者に優しくなる」と感じたという。80年代後半における社会主義国家の崩壊で東西冷戦構造が消滅。90年代に入ると、経済のグローバリゼーションが加速し、IT革命とあいまって国家間のイデオロギー対立が溶解した。その一方で民族、宗教による地域紛争が多発した。これは国家という強制装置から解放され、自らのアイデンティティーを模索する動きであろう。歴史観を問いただす作業と言ってもいい。

バロック音楽の世界でも、古楽器を使った演奏を見直し再現しようという潮流が強まったのは、こうした伝統回帰現象の一つであると理解するのは妥当なのだろうか。

「20世紀半ばに始まった古楽器を使った演奏法を研究する動きが今日のような大きな潮流となったのは、1970年代のことです。19世紀初頭に、それまでに造られた弦楽器は大きなコンサートホールで演奏するために改造されました。現在普通に使われているのはその改造後の楽器です。有名なストラディヴァリもその例外ではありません」



ドイツ ブランデンブルグ協奏曲の演奏会

せん。古楽器というのは、その改造された楽器をまたもとの形に改造し直したものです。作曲家の時代の音楽をそのスタイルにそってできるだけ忠実に再現するか、そういうことはあまり関係なく自らの感情表現に重きをおいて演奏するか、これは趣味の問題ですね」

現代の日本社会では洋の東西を問わず様々なジャンルの音楽が聴けて、日本の伝統的な音楽は一般人にとって身近なものではなくなっている。世界的にも西洋のクラシック音楽が普及しているが、それは近代の科学技術文明の発祥が西洋で、西洋の民主主義、資本主義経済をはじめ、文化、芸術、学問が世界に流布している延長線上にあるのか。それとも、西洋音楽が開かれた体系で普遍性があるのだろうか。

「これだけ日本に、またお隣の韓国、中国に西洋音楽が浸透しているということは、西洋音楽に普遍性があるからでしょう。まさに言葉を超えて通じ合うことができるのです」

## ●ひろがる古楽器による演奏

古楽器による演奏のメッカは、ウィーン・コンツェントラス・ムジクス(オーケストラ)の本拠地ウィーン、スコラ・カントゥルム音楽院のあるバーゼル(スイス)、そしてチェンバロのレオンハルトやリコーダーのブリュッヘン(オランダ人)、弦楽器とフルートのクイケン兄弟(ベルギー人)などが活躍するアムステルダムを中心とするオランダ、ベルギーの地域の3つの場所である。作曲当時の演奏法、楽器の研究はこれらの場所で1960年代に始まり、ここ20年ぐらいでヨーロッパ各国に広がった。

日本では、1978年に桐朋音楽大学に古楽科が開設され多くの演奏家を輩出した。2000年には東京藝術大学にも古楽科が開設されて、古楽器的な音楽へのアプローチは若い世代に浸透していきつつある。若松さんは、週に2回ほどこれらの大学で教えている。演奏家としては、オランダの「18世紀オーケストラ(ブリュッヘン主宰)」

のメンバーとして年に3回演奏旅行に参加したり、日本の古楽器と合唱のグループ「バッハ・コレギウム・ジャパン(鈴木雅明主宰)」のコンサート・マスターを務めるなどの活動をしている。

「バッハ・コレギウム・ジャパンの活動の中心は、国内での演奏、CD録音ですが、最近国外のツアーも増えてきました。18世紀オーケストラはオランダのアムステルダムを本拠地にしたオーケストラです。18世紀後半のマンハイムの宫廷オーケストラをモデルにして1981年に設立されました。メンバーの国籍は14カ国にもなります。私は1983年からこのオーケストラに参加していますが、ほとんどメンバーは変わらないので、こんなに長く一緒にやっているとみんな家族のようです。みんな一緒に年をとったとも言えます」



エルサレム バッハ・コレギウム・ジャパンのイスラエルツアー

アメリカ流の生活スタイルが普及しているが、日本の伝統からすると封建社会を経験しているヨーロッパの社会構造の方が歴史的には近い部分がある。もちろん、異質な文化ではあるが、古き良き伝統を見直し、新しい音楽の価値観をつくっていくこと。それは日本という国が伝統を尊重しながら、21世紀に向けて新しい発想で社会を再構築していく必要性を暗示しているのか。

音楽は人々の心に調和をもたらす源泉のような気がする。

「子供たちの感性を育てるには、音楽などの芸術に触れることがとても役立つでしょう。さらに、日本の伝統音楽や楽器に触れる機会を、例えば小学校、中学などでもう少し与えることができれば、日本音楽を理解できる日本人がもっと増えるのではないか、と思うのです。これは、私自身の受けた音楽教育に欠陥している部分だからです。」

注・古楽器、英語ではInstruments on period、歴史的楽器。時代によってバロックヴァイオリン、クラシカルヴァイオリン、ロマンティックヴァイオリンなどと呼ぶことができる。つまりバロックヴァイオリンはバロック時代にはただの「ヴァイオリン」であった。



小学生の踊り「うれしいひな祭り」

アルゼンチンの学校は3月に始まり、11月の末、あるいは12月の初旬に終了します。そして翌年の3月まで3ヶ月間の夏休みです。私が教える「コリエンテス日本語学園」も一般的の学校に従って、3月から11月末まで授業をしています。日本の英語学校などは夏休み中に特別コースを設けたりしますが、コリエンテスは亜熱帯、夏は昼から夕方6時過ぎまで外を歩いている人がほとんどなくなり、子供たちも夏休み中は習い事を中断するという土地柄です。夏休み中に授業をすると言っても、ほとんどの生徒が来ないでしょう。

ところで、アルゼンチンにはいくつかの日本人移住地があります。移住地では日本語学校という名の「日系人学校」が作られ、日本文化の継承に力が入れされました。しかしこリエンテスは移住地ではありません。よその土地から移ってきた日本人がぽつりぽつりと住み始めたので、早くから混血が進み、日系人と言っても、姓にだけ日本人の痕跡がある、という人がたくさんいます。（そういう人はもちろん日本語が話せないわけですが、それでも子供に日本名をつけたりします）ですから、日本人会が結成されたのも比較的最近のことでのその会員の多くは日本語を話しません。日本人の顔をしていて、なおかつ日本語を話すのは私の一家の他には、よそから移ってきた数家族だけです。

さてコリエンテス日本語学園は幼児から大人まで生徒数約30人（2001年の数字。年によって変動します）の小さな学校です。子供の生徒は日本人および日系人がほとんどですが、中学生以上の生徒はほとんどが非日系人です。生徒数は少なくとも、日常的に日本語を話す生徒と日本語がゼロの生徒が混在している上、毎年初心者が入

学してくるけど、卒業者はいないという状態なので（通常の学校とは違うので、3年や6年通ったから卒業というわけにはいきません。本人が勉強を続けたい限り在籍できます）、少人数のクラスがたくさんできてしまします。加えて、生徒は一般の学校や大学に通っているので、日本語学園に来る時間はどうしても限られます。そうすると、同じ時間帯に複数のクラスが授業をするということになり、教師が5人でも足りないくらいです。

始業式・入学式はありませんが、1年のまとめとして終了式・学習発表会を行っています。アルゼンチンの学校では行事のときに必ず生徒の代表が国旗と州の旗を持って入場し、国歌を斉唱しますが、それに倣って日本語学園でも終了式ではアルゼンチンと日本両国の国旗を生徒の代表に持たせます。そしてアルゼンチン国家の音唱はもちろんのこと、「君が代」のテープも流します。私のような日本育ちの人間には大げさに感じられるが、アルゼンチンの人にとってはそれが当然のことのようです。ちなみに私の息子は韓国生まれの武道「テコンドー」を習っていますが、その道場にはアルゼンチン国旗と韓国の国旗が並べられています。

さて学習発表会ですが、中学生以上の生徒は授業が週1回だけなので、2000年までは踊り（女子）と紙芝居と歌を発表するだけでしたが、2001年は劇にも挑戦しました。小学生の生徒は恒例の踊り（女の子）と紙芝居（男の子）、劇に歌、そして何をやってもかわいい幼児の歌と踊りで、大いに盛り上がった学習発表会でした。



中学生、成人の劇「むかでの医者迎え」

The beauty of IKEBANA



Last 31st of October, 2001, I had a chance to join a group organized by Narashino International Association under the professional guidance of Ms. S. Inoue, for learning the legendary art of the traditional Japanese flower arranging called Ikebana, originally related to religious ceremonies. It was participated by several people of different nations like Thailand, China, Philippines, Colombia, USA, etc. Besides the orientation and tips to follow for basic knowledge, materials [like live Chrysanthemum flowers, willows, vases/kaki, scissors/hasami, flower rests or holders/kenzan] were provided, too. Finally everyone came up with her personally arranged flowers. Pretty it may seem

but our instructress did a bit of rearrangement to create the true concept of the Ikebana. Pieces were arranged skillfully in accordance to the three main compositions, the longest of which (symbolizing Heaven), the middle one (representing Man) and the shortest one (for earth). The simplicity expressed certain dignity quite difficult to express. It was a very nice and interesting experience for everyone. We have come to know a part of the Japanese culture. Some have expressed deep appreciation for its beauty and simplicity, while others have enhanced their creativeness in themselves, it had influenced gentle manners among ladies since handling needs gentleness. I felt on that very moment the serenity and the appeal of these gentle flowers as they have given me this fleeting yet captivating beauty. I guess, there's truth as in the saying "the fastest way to capture a woman's heart is through beautiful flowers". There was a gratifying feeling of satisfaction heard from each one of us during the interview from the staff of the local TV-station.

Since flowers are almost suitable in every occasion, it would be helpful to know the basics of the art of flower arranging. It should coordinate with the style and function of the interior. Designs range from formal to casual combinations. The selection for arrangement should depend on its purpose, the varieties of flowers available and the type of container used. There are four basic forms in the art namely: the circular, horizontal, triangular, and vertical. In Ikebana, they are skillfully arranged to look like growing plants. Arrangers make use of containers like simple bowls, vases of bonze, clay, woven bamboo baskets, lacquered boxes, trays, wine bottles, water pitcher, lacquered bamboo, glass, and many others. Live floral materials like flowering branches, leaves, fruits, pods, buds, twigs, pinecones are also used to give a totally lively effect.

Flowers are bearers of beauty and when they are arranged especially in harmony with nature, like the four seasons, they carry a significant meaning very touching to us. And, learning the art of IKEBANA, which has a deceptively simple appearance yet it carries a meaningful message. It is a type of floral display usually arranged to convey a message from the arrangers themselves. Professionalism calls for a deep understanding of nature, specialization, skill and experience. There are several IKEBANA schools existing in Japan now, like Ikenobo, Sogetsu, Ohara, and others.



## 外国人パネリストを迎える 日本語ボランティア講師研修

せきもと ともみ 関本 智美 (日本語ボランティア)

さくねん 昨年12月12日「日本語ボランティア講師研修会」を行いました。

師走の忙しい中40名の方々が参加され、5名の日本語学習者をパネリストに迎え、「日本語勉強会」と「学習者が望む日本語教師像」をテーマに遠慮なく話していました。2つのテーマの中には、「文語と口語の違い」、「日本語の曖昧な言葉・表現」、「直接法と対訳法」、「授業を面白くする工夫」など多くの内容が組み込まれて、5人5様の意見がとても印象的でした。特に印象的だった内容をいくつか挙げますと、「媒介語を使った授業はどう思いますか?」との質問には、「出来るだけ日本語で授業をしてもらいたい」、「もし媒介語を使うならば、学習者に一言相談した方が良い」という意見が出ました。「話す勉強はどういう事をしましたか?」との質問では、「話す勉強の前に、聞く・書く練習をした」、「会話の勉強になったのは、テキストよりも自分について話す授業の方が実際に使えた」と言う意見などありました。そして、「良い印象の先生はどんな人ですか?」との質問には、「生徒の国に興味を持っている先生」など、研修会中、興味深い意見がでたり、学習者の努力に感心させられたり、本当に5人学習者がいれば5通りの勉強方法があり、40人講師がいれば40通りの教え方があると思いました。この研修会を通して「直接法と対訳法」や「少人数レッスンのメリット・デメリット」などの問題も改めて考えるきっかけになったと思います。閉会後、参加者の方々からアンケートを提出して頂いたのですが、感想の中で「学習者の意向を上手に吸い上げる事の大切さを理解した」、「教える側も向上心が必要」と書かれてあり私も同じ気持ちでした。参加者の方々にとって、



こんかい え たんとうしゃ たいへんうれしく思います。今年も日本語を通じて、生徒も講師も共に向上したいですね。  
餅つき大会に参加して

ぬまさわ けいこ 沼澤 佳子 (編集部員)

1月27日の12時から、谷津公民館において、交流部会主催、毎年恒例の餅つき大会が行われました。身の凍るような寒さの中、外国人20名を含む60名の方が出席されました。昨年は、大雪で中止だったということもあり、今年も開催されるかどうか危ぶまれましたが、予想を上回る参加者で会が盛り上りました。毎度のことではあります、火おこし、もち米を炊くという作業、杵臼の手配、そして、あんこ、大根おろし、お雑煮、あべかわ、きなこ等の準備、下ごしらえを会員の方々の助けを得ながらつきたてのお餅を美味しくいただくことができました。



特に、谷津南小学校の5年生6人の特別発表は、参加者に感動を与えてくれたようです。アトラクションを用意していなかったので、子どもたちに出し物の依頼をしたところ、快く応じてくれ、日本についての○×式クイズを5問。外国人にも解かりやすい簡単なものを選んで日本についての理解を深めました。交流部会長の澤さんが、その都度通訳をしてくれ、陰ながら子ども達をバックアップしてくれました。そして、最後に、音楽部のメンバーでもあることから、手話を交えながら“スマイル・アゲイン”を披露してくれ、和やかな雰囲気の中、会が終了しました。

子どもたちの参加が、ただ食べるだけではなく、火おこしを体験したり、食べ物を食べた後のゴミのリサイクルを考えたり、また、地理、歴史、文化の学習が役立ち、国際交流のモチベーションを高める手段になることを念願します。

# information／会長の就・退任のお知らせ

当協会発足以来、会長としてご尽力いただきました林安次氏が、ご都合により退任することになりました。初代会長として15年に渡り、協会の発展のため全力を傾注された林氏の貢献について心より感謝を申し上げたいと存じます。

後任の会長には、副会長であった白鳥純氏が理事会において選任されました。又、白鳥氏の後任には山崎美知代さんが副会長に選任されましたのでお知らせします。

## 会長退任のご挨拶



前会長 林 安次

会員、関係各位の皆様には、益々ご  
隆盛のこととお喜び申しあげます。  
当協会も、本年7月をもちまして満  
15周年を迎えます。発足以来多くの方  
のご支援により活発な事業活動を展開  
することが出来ました、これも皆様のご尽力の賜と深く  
感謝申し上げます。

不肖、私も発足以来当協会会長として15年というなが  
きに渡り、皆様のご協力とご指導を頂いて参りました。  
協会も独自の運営体制に入り約3年を過ぎ、経営基盤も  
安定して参りました。

この際、会長も若い活力を發揮して頂ける方に職務を  
託したいとの希望を持ち、去る1月29日に開催した理事  
会に提案し、退任のご理解を頂きました。

後任の白鳥 純会長は、将に私の念願しておりました  
人材であります。新会長の指導のもとに当協会が大きく  
発展することを期待しております。

会長在任中に皆様から賜りましたご厚情に対し、心よりお礼を申しあげ退任のご挨拶とさせて頂きます。

## 外国人児童に対して日本語を!!

N.I.A.の日本語ボランティア活動は、在住の外国人に対して、マンツーマン方式を基本として週3回サンロード6階の市役所会議室で行っています。現在18カ国70名の外国の人々が日本語ボランティアの講師とともに懸命に勉強しています。

受講者の中には、主婦も多く、今後子ども達が幼稚園や小学校へ入学した時に日本の子ども達と会話をすることが出るかと不安を抱いている方も大勢います。

この様な状況を受け、N.I.A.では市内の小中学校に在校中の児童、生徒に対して日本語の修得について援助をし、日本での生活が楽しめるような活動を始めようと準備を進めています。

本年4月からの完全週休2日制の導入に合せて毎週土曜日の午前中、サンロード4階のN.I.A.事務局会議室で実施する予定です。勉強は、マンツーマン方式(個別学習)で行いますが、日本語の勉強だけでなく、学校や社会の中で困っていることも相談を受けながら解決していく場所にしたいと思っています。

また、子どもたちにとって、友達作りの場所としても利用して頂けるように考えていますので在住外国人のお子さんや帰国子女の方を歓迎致します。

お問い合わせ、ご相談は、N.I.A.事務局へ。

## 会長就任のご挨拶

会長 白鳥 純



謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び  
申しあげます。

さて、私こと2月1日付けをもって  
習志野市国際交流協会会长に就任いた  
しました。

長年会長としてご尽力された、林 安次前会長の手腕  
により当協会も15年の年輪を重ね、習志野市の国際交流  
団体としての礎を築いて参りました。このような会長の  
後任としては誠に微力ではございますが、習志野市の国  
際化、国際協力の推進のため精一杯努力いたします所存でござります。

今後とも会員並びに関係各位のご指導ご鞭撻を賜りま  
すようお願いし、就任のご挨拶を申しあげます。

謹白

Every Monday that the Narashino International Association (NIA) is open, ALT's who live in Narashino stop by to volunteer their time to converse and get to know members of the Narashino community. From children, to high school students, to house wives to non-Japanese and non-English speakers (such as from China and Thailand), a wide variety of people join us in order to get a taste of another culture and another language.

These talks are beneficial in many ways, not only to the individuals who attend, but also to the community, Japan, and the world as a whole. Individual exchanges with English speaking ALT's provide a person with not only a new look at another part of the world, but also valuable experience conversing in a foreign language. Many students come to test their skills and to become more comfortable with the language in preparation for High School entrance exams. In addition, these individuals will go out into the community and tell others about their experience. This can provide an ever expanding growth of valuable insights into different cultures, providing a broader worldview, and a greater appreciation for the diversity of our world. The ALT's also learn a lot from these exchanges. They are likely to return home and tell others about the interesting people they met in their stay overseas, attracting others to share the experience.

These talks are by no means limited to idol conversation about people's hobbies and personal lives. Conversation in the past has begun with where someone went fishing over the weekend, and by the end of the time, we're discussing the language of chimpanzees. I highly recommend to anyone who is interested in learning English, learning about a new culture, helping bring the world closer together, or just looking to meet some new friendly faces to stop by the NIA on Monday's at 4PM. Who knows what you may learn?

まいしゅううげつようび しないいじゅう がいこくごしどうじょしゅ じはつき とうきょううかい ちいき ひとたち 毎週月曜日、市内在住のALT (外国语指導助手) が自発的に当協会に立ち寄り、地域の人達と会い、お話を機会を設けています。子供から、高校生、家庭の主婦、外国人や英語を話さない (中国やタイ等からの) 人達が、お互いの文化、言葉に触れ合っています。

かい しゅっせき ちいき せかいぜんたい いろいろ めん やくだ この会に出席した人だけでなく、地域にとっても、日本や世界全体にとっても、色々な面で役立っています。 ALTと英語で意見を交換しながら、もう一つの世界を知る切っ掛けになったり、外国语での会話という貴重な経験も出来ます。多くの学生達が、自分の才能を試しにやってきたり、高校入試の為の英語への不安の解消にやって来ています。

ひとたち はな じぶんたち たいけん こと つた 又、これらの人達が、地域を離れ、自分達の体験した事を他の人に伝えてくれる事でしょう。 ひいては、異文化の中の大変なものを見つける力を養う事になり、広い世界観を持ち、個別の世界の違いに気付くことは、大切な事です。

こうりゅう つう こきょう かえ かいかい であ ひとびと 一方、ALT達も、これらの交流を通じて多くの事を学び、それぞれの故郷に帰ったら、海外で出会った人々との楽しかった会話を伝え、この経験を分かち合うつもりです。 けつ 決して趣味とか暮らしについてのお話を限られてはいません。かつては週末にどこそこの魚釣りに行ったとかでしたが、今ではチパンジーの言語についての議論までに発展しています。

えいご まな みし ふ 英語を学びたい人、見知らぬ文化に触れたい人、世界をもっと身近に感じたい人、あるいは、ただ単に見知らぬ人懐こい顔に会いたい人、どなたでもいいですよ。

こご とうきょううかい 每月曜日の午後4時に当協会に立ち寄ってみて下さい。思いの他のことも学べるかもしれませんよ!

(館川 訳)



# 会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

## 言語の感想



馮慧（中国出身）  
「你好！（ニイハオ）」私は馮慧と申します。一昨年12月頃、息子を連れて中国の北京から日本にやってきました。冬の雪が絶えない北の国から来た私は、日本の冬がこんなに暖かく、緑が溢れて、花がいっぱい咲いている事が最初の印象でした。街の行ったり来たりする人達を見て、親切な態度、謙虚で上品な話し方、顔、皮膚、黒髪等が全く中国人と変わりなく、自分の国にいるような感じでした。しかし、いったんこの国で生活してみると目に見えない大きな壁に直面し始めました。それは言葉です。特に買い物の時、この品物はどこに置いてあるかとか、この服は他のサイズ、色等があるかとかなど簡単な会話さえ出来ませんでした。私は、性格的には明るく、お喋りが好きなタイプです。中国で医科大学を卒業した後、ずっと医者の職業を勤めたので患者さん達との会話は日常的なものでした。人がコミュニケーションを取ったり、理解し合ったりするために、言葉は欠かせない重要な手段であります。自分の国にいるような気がしながらも、日常生活の会話が出来ない私は孤独でした。その時、習志野市国際交流協会の紹介で、外国人のための日本語講座に参加でき、そこで、日本語ボランティアの小泉先生をはじめ、他の先生達と知り合い、日本語の勉強を始めました。今、日常の簡単な会話もできるようになりました、近所の奥さん達と会話を楽しんでいる毎日です。日本語の先生達の教育熱意、全身善意、勤労奉公の情熱が深く感じられ、心より感謝の気持ちでいっぱいです。私も日本語の先生達に応えられるように、もっともっと日本語の勉強を頑張りたいと思います。また、NIAスクエア紙を通じてもっとたくさんの日本人と知り合い、いろんな日本語で会話し、レベルを上達させ、日本語の先生達のように、自分が習得した漢医学の専門知識をボランティアで社会に大いに貢献できればと思います。

## 日本の各地を旅したい



キム・ウィルコック（イギリス出身）  
私は、キム・ウィルコックと申します。英国の南にあるブライトン出身です。アジアの各国を旅したく、神田外語大学で仕事をするため、去年の3月に来日しました。今まで、故国で6年間大変楽しく教師生活を送っていました。趣味は、テニスや水泳で、レストランに行ったりすることがとても好きです。和食が好きで、特に、納豆、寿し、味噌汁、焼きとりなどが好きです。大学では、主に、作文を担当しています。大部分の学生は、入学当初は、作文力がかなり劣っていますが、結構早く力を身につけています。学生達のエッセイを読むことで、私自身、日本の手法・思考を理解し、学び取ることができます。

現在、大久保に住んでいますが、近所には市立図書館もあり、私は時々そこで“Daily Yomiuri”を読んだりしています。大久保には、長い通りに沿って、興味のありそうなお店やレストランが沢山あり、生活するのに便利で楽しい場所だと思います。

私は、毎週木曜日の夕方に、N.I.A.の日本語のレッスンを受けています。来日して何ヶ月か経ちましたが、少しではありますが、日本語を話せて理解できるようになりました。しかしながら、大学の山積みのエッセイを自宅に持ち帰り、目を通す作業があり、充分に勉強する時間がありません（とても残念です）。F.F.サロンに数回出席させていただきましたが、とても親しみやすい雰囲気で、会員の方は外国人に対して歓迎してくれ、好意的に接してくださいました。あまり、日本国内も旅行していないので、いろんな所を旅してみたいと思っています。（沼澤訳）

## 3月の行事

### ■ボランティア研修会

日時 3月16日(土) PM 2:00~

場所 N.I.A.事務局

講師 (財)ちば国際コンベンションビューロー  
大地 浩子 さん

### ■ボトラック、パーティー

日時 3月23日(土) PM 1:00~

場所 N.I.A.事務局

参加者は、食物、菓子等一品持参してください。

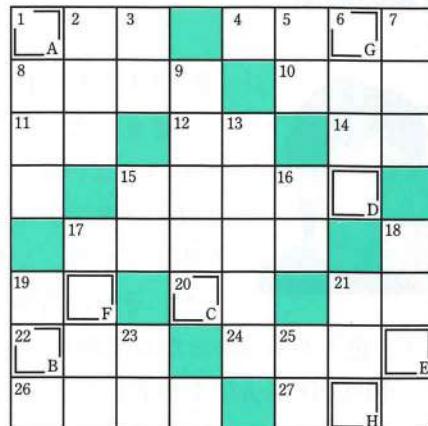
# Letsチャレンジ／ザ・英文クロスワードパズルNo.57/プレゼント付！

## 〈Across〉

- To drink in small quantities, or little by little.
- \_\_\_, took, taken.
- A standard or model.
- All Nippon Airlines.
- London is situated \_\_\_ the Thames.
- East Central (Postal Area in London).
- Internal Revenue.
- Change in order to make suitable for (a new purpose).
- the United \_\_\_s of America.
- Chemical symbol for tantalum.
- Letter of Credit.
- From Tokyo \_\_\_ Osaka.
- Armed Forces Network.
- Greet, give a welcoming cry to. To salute.
- Superlative of good.
- Piece of furniture, etc., on which to sleep.

## 〈Down〉

- Frozen vapour falling from the sky in flakes.
- An electrically charged particle.
- Public Relations.
- Automobile Association.
- Make (an article of clothing, etc.) by looping wool, silk, etc., yarn on long needles.
- Organ of hearing.
- A coin like piece of metal with design commemorating a special event, deed etc..
- \_\_\_, caught, caught.
- She goes to bed \_\_\_ ten o'clock in the evening.
- Protestant Episcopal.
- Unhurt or undamaged.
- Copper medal, Silver medal, \_\_\_ medal.
- Small piece of strip of cloth etc..
- Fasten with string, etc..
- New Style.
- Bachelor of Arts.



〈出題者〉 御園生 肇 (編集部)

## 〈応募要項〉

クロスを解いたあと、A～Hの文字をつなげてできたことばが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで4月末日までにお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。  
たくさんのご応募お待ちしています。

## アフガン難民緊急募金に寄付

(財)日本ユニセフ協会の募金に支援するため、青少年部会で開催のクリスマス会、交流部会のバーベキュー大会の参加者に協力をお願いしました。この度の行事の参加費や、協会へお持ち頂いた募金を含め、56,032円を歳末に送付いたしました。先日(1月23日)、日本ユニセフ協会よりこの募金に対して感謝状が届きました。募金はアフガンの子ども達の健康を回復し、教育を再開するために使われるとのことです。皆様のご協力にお礼を申し上げます。(青少年部会)

## ユニセフ外国コイン募金にご協力ください

ユーロへの移行などで両替できなくなった外国コインはありませんか？外国コインの募金はN.I.A.事務局及び各公民館に募金箱を設置し、常時受け付けています。皆さんから頂いた募金は(財)日本ユニセフ協会へ送られ、発展途上国の子ども達の命と健康を守るために役立てられます。例えば、1ドルで治療用ペニシリソナなら4瓶、失明を防ぐビタミンAのカプセルなら26個、ノートなら8冊、鉛筆なら26本買うことが出来るのです。外国のコインであれば、どこの国のもとでも結構ですのでご協力いただけたら幸いに存じます。(青少年部会)

## 編集後記

\*中東でバッハを演奏したら、聴衆から感動の渦が起ったという。音楽は国境を越えて人間に調和をもたらす。世界共通の言語なのかもしれない。(T.K.)

\*モンゴル国は、姓のない国で、父や母の名前を付けて識別しているとか、みんな兄弟みたいに親しいなら兄弟喧嘩はあっても、9. 11のテロは避けられたのでは？(Y.T.)

\*東、南、西は中国に、北はロシアに接する内陸国モンゴルは、距離的には日本からそんなに遠くはない。にもかかわらず、同国に対する認識は、ゴビ砂漠と朝青龍、旭鷲山などの相撲力士の活躍程度で、一般的には未だ低いと推察される。今回の「特集」を契機にもっとその認識を発展向上させたい。(K.M.)

\*N.I.A.青少年部会では、ただ今、会員を募集しています。日本を愛する人、外国に興味がある人、世界平和を願っている人をお待ちしています。(K.N.)

\*提出物に追われたり、怪我をしたりと、あわただしい日々でしたが、こんなときはクラシックでも聴いてひと時でも心に余裕を持ちたいものです。(Y.K.)

\* "I hope this issue will open the door for Mongolian nationals to correspond with our association (NIA). We would be delighted to know more of this beautiful country." (M.J.S.)

## 前回の解答

〈解答〉 DECEMBER

W	H	O	E	A	S	T
E	E	L	S	N	E	O
S	M	O	M	N	P	
T	B	U	I	L	D	
	B	A	T	C	H	L
D	A	H	R	T	O	
I	L	L	O	P	E	N
G	L	A	D	L	E	G

当選者

大久保みのりさん 高木俊一さん

吉田理沙さん 古屋宏樹さん

斎藤衛さん 正解者は24名でした。

## N.I.A.スクウェア・第57号

発行2002年3月1日/発行責任者・白鳥純

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・館川裕

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.city.narashino.chiba.jp/nia/>

<Eメール> nia@city.narashino.chiba.jp